

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 103人

② 算数 103人

5 留意事項

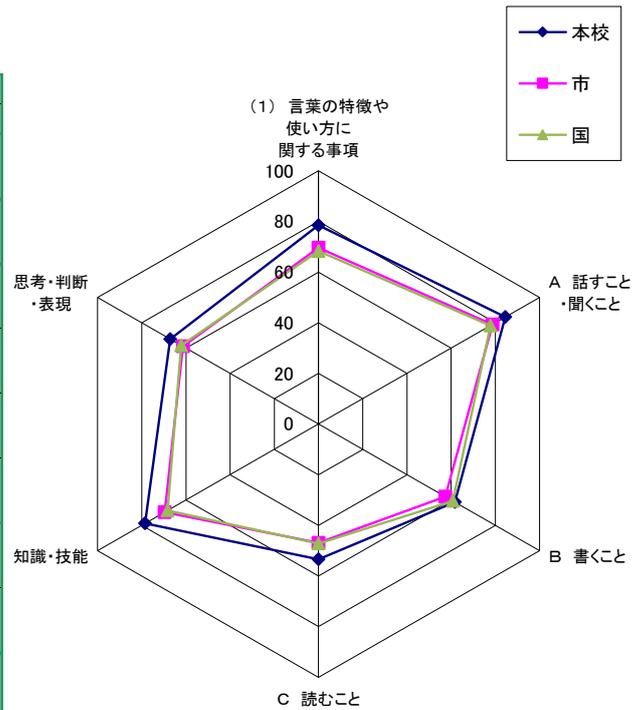
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	78.5	69.6	68.3
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	84.5	78.7	77.8
	B 書くこと	61.7	57.3	60.7
	C 読むこと	53.4	46.9	47.2
観点	知識・技能	78.5	69.6	68.3
	思考・判断・表現	67.1	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

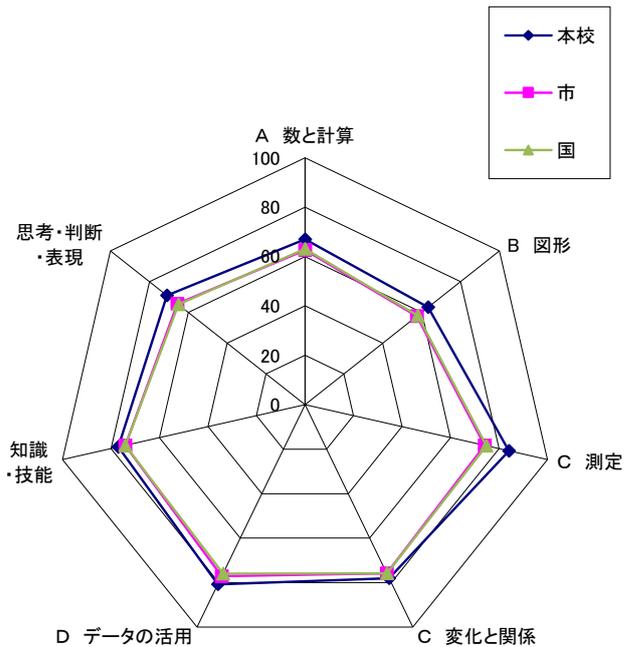
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、全国や市の平均より高い。</p> <p>○漢字を文章の中で正しく使う問題をよく理解している。</p> <p>○文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題をよく理解しており、正答率は全国や県の平均より10%以上高い。</p> <p>●漢字を文章の中で正しく使う問題に関しては、問題の無回答率がやや高い傾向が見られる。</p>	<p>・漢字練習に引き続き力を入れて指導し、文章で練習させるように指導を行っていく。</p> <p>・作文や日記などで、既習の漢字を積極的に使うよう、指導していく。</p> <p>・漢字の意味を正しく理解し、文章の中で使っていくことができるよう、国語辞典を使っての意味調べを行う指導を継続していく。</p> <p>・同音異義語を調べたり、学校生活で意図的に提示したりすることで、正しく理解することができるようにする。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国や市の平均より高い。</p> <p>○スピーチの練習で、資料を使った理由の説明として適切なものを選ぶ問題をよく理解している。</p>	<p>・スピーチなどの自分の考えをまとめて発表を行う際には、発表原稿やスピーチメモを活用して筋道を立てて話すことができるように指導を継続していく。</p> <p>・各教科や領域での話し合い活動の場では、資料を効果的に使って話す機会を意図的に取り入れていく。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、全国や市の平均より高いが、全国とほぼ同じである。</p> <p>○目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>●文章全体の構成や展開を考え、適切な説明を選択する問題は正答率が全国や県と比べると低かった。</p>	<p>・自分の主張が明確に伝わるよう、文章全体の構成や展開を検討できるよう指導していく。</p> <p>・各教科や単元で、自分の考えをまとめて書く活動を意図的に取り入れるようにし、文章構成を意識させる指導を行っていく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、全国や市の平均より高い。</p> <p>○目的に応じて文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける問題をよく理解している。</p>	<p>・さらに児童の読書活動を充実させ、優れた叙述に着目して読むことができるように指導を行っていく。</p> <p>・どの叙述に着目したのかを明確にして考えをまとめることができるような指導を行っていく。</p>

宇都宮市立石井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.0	62.6	63.1
	B 図形	63.4	57.5	57.9
	C 測定	84.1	74.1	74.8
	C 変化と関係	78.0	75.8	75.9
	D データの活用	80.8	77.1	76.0
観点	知識・技能	77.0	74.1	74.1
	思考・判断・表現	71.0	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○ある量を1としたとき的小数倍の考え方を説明することができる。 ●商が1より小さくなる除法を使った文章題の正答率が全国平均を下回っている。	・全体的に全国や県の平均を上回る結果であり、引き続き基礎基本を重視して、指導していきたい。
B 図形	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方について、よく理解できた。 ●直角三角形の面積を求める際、ある辺を底辺としたとき、高さがどこにあたるかについて迷う児童も見られた。	・全体的に全国や県の平均を上回る結果であり、公式の意味や考え方などの基礎基本を重視して、指導していきたい。
C 測定	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○道のりの意味が正しく分かり、二つのコースの距離の差を求める場合、減法を適用することを理解している。	・全体的に全国や県の平均を上回る結果である。定規やコンパス、時計などの使い方について、今後も丁寧に指導していきたい。
D 変化と関係	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○時間×速さ＝距離の考え方がよく身に付いている。そのため、この基本の式の変形で、時間と速さをもとめることができることについても、よく理解できた。	・全体的に全国や県の平均を上回る結果であり、引き続き基礎基本を重視して、指導していきたい。
E データの活用	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○棒グラフや帯グラフからデータを読み取ったり、項目間の関係を読み取ったりすることが正確にできている。	・全体的に全国や県の平均を上回る結果である。棒グラフや帯グラフを描いたり読み取りする場合、割合の考え方が基本となることをしっかり指導していきたい。

宇都宮市立石井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問に対しての肯定的な回答の割合が低い。学級活動や道徳などの授業を通じて自己肯定感を高める取り組みを継続的に行っていく必要がある。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」の設問に対しての肯定的な回答の割合が高い。地域の行事に積極的に参加していることから、地域に貢献したいと考えている児童が多い。

●ICT機器の活用についての肯定的な回答の割合が低い。授業で動画を見せたり、デジタル教科書を使って授業の効果を上げた他に、算数の正多角形の学習ではプログラミングを取り入れたり、ワードの機能を使って学習してきたが、児童自身にICT機器を活用して学習したという実感はあまりなかったようだ。今後は一人一台端末があるので、教科の特性に応じて活用していきたい。

○「国語の勉強は好きですか。」の質問に対し、肯定的な回答をした割合が全国と比較すると13ポイント以上高かった。主体的に国語の学習に取り組む児童の様子が伺える。

○「これまで学校の授業以外で英語を使う機会がありましたか。」の設問に対して肯定的な回答の割合が高い。それにともない「英語の勉強は好きですか。」の設問に対しても肯定的な回答が多く見られる。児童は英語の学習に対して、必要性を感じ意欲的な様子が伺える。

宇都宮市立石井小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動の充実	授業の中で、協働的な学習を積極的に行い、一人一人が自分の考えを発表し合う活動を取り入れたり、自分の考えを書く時間を確保したりしている。	「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。」という質問に肯定的な回答をした児童は77.6%で、県や全国の割合を3～6ポイント上回っている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」との質問に肯定的に回答した児童は、8割を超え、全国の平均を若干上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では、文章の構成や展開を捉えること、文章中の漢字を書くことに課題が見られた。 算数では、問題文を正しく読み取ったり、図から式を立てて問題を解いたりすることに課題が見られた。	・既習事項の定着を図る。 ・文章問題を丁寧に解かせる。	各教科や単元で、既習事項の問題を繰り返し解いたり、説明したりする。また、国語の物語文や説明文教材では、文章構成が理解できるよう丁寧に指導を行う。 算数では、計算問題だけでなく、文章問題を丁寧に扱い、問題文を正しく読み解く力を付けさせていきたい。